

3. 2017 年度活動概要

科学英語教育研究会では、昨年に引き続き EAP としての科学英語教育に関連した研究発表をテーマとして活動を行った。具体的内容としては、従来の教育ツールとしての e-learning、オンライン教育サイト、ホームページなどの紹介に加えて、昨今改良がめざましい機械翻訳に関するトピックを新たに扱った。JACET 国際大会（青山学院大学）においては、会員の研究活動の活性化のために科学英語教育研究会ポスター発表を実施し、科学英語教育研究の紹介に努めた。研究会活動としては 6 月、8 月、12 月、2 月の 4 回の研究会および、8 月の JACET 国際大会におけるポスター発表、12 月の大阪工業大学の模擬国際学会 MIC（Mock International Conference）への参加、計 6 回実施した。

第 6 回は「ニュース記事を用いた課外学習の実践」玉田麻里子（大阪工業大学）：「医学部生への医学英語リーディング指導」浅野元子（大阪大学大学院・院生）の二つの発表を実施し、授業外での課題の与え方や動機づけ、医学系大学のミニコーパスの構築やムーブの検討をトピックとして扱った。第 7 回は「自律型 EBP(English for Business Purposes)教材作成の試み」照井雅子（近畿大学）：「AntCorGen の使用経験の共有」浅野元子の二つの発表を実施し、自律型 EBP 教材のデモンストレーションやその背景、コーパス作成ツール AntCorGen のワークショップを実施した。第 8 回は「ジャンル概念にもとづいた英語アカデミックライティング指導」藤岡 真由美（大阪府立大学）：「機械翻訳とポストエディットの現状について」浅野元子、の二つの発表を実施した。第 9 回は「機械翻訳を使用した EFL 学習者のライティングプロセス」西山幹枝（東京医療保健大学 東京大学大学院）青田庄真（東京大学大学院）松田紀子（藍野大学）：機械翻訳ワークショップ 村尾純子（大阪工業大学）を行った。12 月には大阪工業大学の模擬国際学会 MIC（Mock International Conference）へ研究会として参加し、会員所属機関からの学生のポスターおよび口頭発表への参加により、昨年から引き続き大学間コラボレーションが実現した。どの会も発表者と参加者の間で熱心な議論がかわされ、今後も新たなプロジェクトを続けていきたいと考えている。